碧海信用金庫

2026年11月16日

各 位

碧 海 信 用 金 庫

令和8年度上半期 経営情報の開示について

碧海信用金庫（理事長：深谷　誠）は、令和 8 年度上半期の経営情報について、以下のとおり公表いたします。

記

１．主要業績数値

〔預貸金等の状況〕

（単位：百万円）

	2026年9月期	2026年3月期（前期）	増　減
金融資産残高	2,513,742	2,482,703	＋31,039（　＋1.25%）
預金積金残高	2,334,889	2,327,368	＋7,521（　＋0.32%）
預かり資産残高	178,853	155,335	＋23,518（　＋15.14%）
貸出金残高	1,279,907	1,253,005	＋26,902（　＋2.14%）

〔損益状況〕

	2026年9月期	2025年9月期（前年同期）	増　減
業務純益（※1）	△2,073	2,869	△4,942（△172.25%）
実質業務純益（※2）	△2,073	2,869	△4,942（△172.25%）
コア業務純益（※3）	3,340	2,613	＋726（　＋27.80%）
コア業務純益（投資信託解約損益を除く）	3,034	2,719	＋315（　＋11.58%）
経常利益	1,343	3,780	△2,437（　△64.47%）
当期純利益	1,015	2,823	△1,807（　△64.02%）

〔健全性〕

	2026年9月期	2026年3月期（前期）	増　減
純資産	145,140	149,635	△4,495（　△3.00%）
（うちその他有価証券評価差額金）	△51,596	△ 45,996	△5,600（　△12.17%）
自己資本比率（単体）	15.26%	15.31%	△0.05ポイント
不良債権比率	2.53%	2.71%	△0.18ポイント

（注）1．単位未満切捨て表示。
2．不良債権比率は金融再生法ベース。小数点第 3 位を四捨五入して表示。

※1 業務純益とは、金庫の基本的業務に係る利益です。
※2 実質業務純益とは、業務純益から、一般貸倒引当金繰入額の影響を除いたものです。
※3 コア業務純益とは、業務純益から、一時的な変動要因（一般貸倒引当金繰入額および国債等債券関係損益）を除いたものです。

2．業績コメント

〔預貸金等の状況〕

○ 預金積金残高は、定期預金の増加等により、前期末比 75 億円増加の 2 兆 3,348 億円となりました。預かり資産を合わせた、お客さまからお預かりしている金融資産残高は、前期末比 310 億円増加の 2 兆 5,137 億円となり、着実に増加しています。
○ 貸出金残高は、個人向け・事業者向け貸出ともに増加し、前期末比 269 億円増加の 1 兆 2,799 億円となりました。

〔損益状況〕

○ 預金利息や人件費が増加した一方で、貸出金利息や市場運用での利息配当金が増加したことにより、本業での収益力を表す指標であるコア業務純益(投資信託解約損益を除く)は前年同期比 3 億円増加の 30 億円となりました。
○ 金利上昇に伴い、将来の収益性向上のため金利の低い債券等の損切りを実施し、売却・解約損を 53 億円計上したことにより、業務純益は前年同期比 49 億円減少の△20 億円となりました。
○ 債券等の損切りの一方で株式等の売却益を 37 億円計上したこと等により、経常利益は前年同期比 24 億円減少の 13 億円、当期純利益は前年同期比 18 億円減少の 10 億円となりました。

〔健全性〕

○ 金利上昇に伴う有価証券評価損の拡大により、その他有価証券評価差額金（※）は△515 億円となりましたが、内部留保により蓄積された利益剰余金（1,954 億円）で十分に吸収できる水準に収まっています。※その他有価証券評価差額金とは、有価証券の評価損益から税効果分を差し引いたもので、純資産の部に計上されます。
○ 自己資本比率は、貸出金等の増加により前期末比 0.05 ポイント低下の 15.26%となりました。信用金庫に求められている国内基準（4%）を大幅に上回っています。
○ 事業再生・経営サポート活動に努めた結果、不良債権比率は前期末比 0.18 ポイント低下の 2.53%となりました。不良債権の約 9 割は担保や保証、貸倒引当金でカバーされています。

碧海信用金庫

３．2026 年度半期ディスクロージャー誌の開示について

2026 年 11 月 20 日(金)より、当金庫ホームページで開示します。店頭・ロビーでもご覧いただけます。

以　上